

校長研修だより192

本年度のパワーフレーズ

2025・4・4 重枝 一郎

2025 年度学院年間聖句

「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(コリント信徒への手紙Ⅱ 5章 17節)

2025 年度 「チャーミングなファーストペンギンになれ」

人の幸福感を左右するのは、選択の場面で自分で決定できたかどうかだと言います。「自分で決める力」を付けるためには・・・

まずは、「ファーストペンギンマインド」をもつことです。

何かをやる前に、「やる意味があるのか」「将来役に立つのかな」を考えないということです。また、「完璧にやりたい」も必要ないのです。うまくいかなかったら修正していく力の方が大切になります。そして、「できない理由」を考えないということです。「できない理由」は0.2秒で、いくらでも思いつくと言われています。

だから、「失敗したくないんです」からの卒業です。

とにかく「おもしろがる」「試す」「失敗（不成功）から学ぶ」というマインドです。完璧主義からの卒業とも言えます。

そして、「応援され力」です。

自分の力を補う他者の力は必ず必要になります。そのためには、「応援したい」と思われなくてはなりません。いわゆる「人たらしになろう」のことで。ポイントは、「あいさつ」「お礼」「真剣さ」「ひたむきさ」「笑顔」です。

私は、ここまでの話をまとめて、女学院生に、なってほしい人のキャッチフレーズをつくりました。それは、「チャーミングなファーストペンギンになろう！」です。「チャレンジ」と「応援される力」を合わせた意味になります。

でも、このような話をしても、実際そうする人はどれくらいいるでしょうか。

重要なのは実際の行動です。考える前に、「1回」「1個」「1問」「1ページ」の行動がカギを握ります。とりあえずやり始めることが大切です。

実は研究結果で、「読んでみたら？ 調べてみたら？ 行ってみたら？ 食べてみたら？ やってみたら？」と言われて実際やる人は2%だと言われています。50人に1人です。「女学院生は2%の人になろう！」とマインドをセットしていこう。

年度初めにあって、校長研修だより 24号
「開発的生徒指導の実際」を今一度読んでほしい。

2021 年度 自分よし 相手よし みんなよし

これからの時代は、自分ひとりの力ではなく、他者との協働を繰り返しながら考え抜くことが必要不可欠であることから、「対話的な学び」はとても大切であると考えられています。つまり「対話的な学び」は、生徒同士のコラボレーションや、学内外の他者

との対話を通じて視野を広げていく学習であり、お互いの考え・意見の違いを乗り越えて問題の解決を目指すことです。その際、合意形成を目指していくことになります。

そのためのマインドセットは、「自分よし、相手よし、みんなよし」です。この「三方よし」という発想で、相手に理解してもらおう対話の技術（コミュニケーション力）を身に付けてほしいのです。

2022年度 「ひとりにもなれる ひとつにもなれる」

「ひとりにもなれる」というのは、主体性と多様性をたどっています。「ひとつにもなれる」というのは、協働性と一体感をたどっています。「ひとりにもなれる」人は、主体性があるので、自ら他者からの気づきを得ようとしています。つまり、仲間と学び合える人にもなれるということです。これが、「ひとつにもなれる」にもつながります。

2023年度 「Love&Leadership」

社会は大きく変わってきています。その中で、当たり前ですが「今求められる人材」も話題になります。「これからの社会が求める人材」の2つのワードが、1つは「柔軟性」、もう一つが「人たらしの要素」です。

1つ目の「柔軟性」については、「受け入れる力」のことです。2つ目の「人たらしの要素」というのは、具体例で言うと「いつも穏やかなので安心して話しやすい」「忙しくても手を止めてあいさつしてくれる」「冗談を言えばいつも朗らかに笑ってくれる」「押しつけがましいところがない」「どう思う？とさりげなく声をかけてくれる」「オープンな性格で接していて気持ちがいい」「心に垣根をつくらない」「弱みも見せてくれる」「失敗を笑い飛ばす快活さがある」・・・これはいつものみなさんの姿だと思いました。

「Love&Leadership」

- 互いを尊重し、個性や学習知を活かしあえる学校
- 誰もがリーダーシップを発揮できる学校

みんなのワクワクが、一人一人のワクワクを広げてくれるような学校にしていきたいと思います。

2024年度 「成長はたし算」

私は「成長はたし算」「人はたし算」「人生はたし算」という話を様々な場所でよくします。

この“たし算”はどんどん自分を成長させてくれます。誰でもいつでも「新しい自分」をつくることできるということです。特に新しい人との出会いには、必ず自分の新しい面が顔を出します。それも同質の人より異質な人の方がそれは出やすかったりします。ちょっと気が合わない人とも付き合うと“たし算”は結構大きくなります（笑）。

この話は、「キャリア教育」にも通じる話です。今のキャリア教育は、様々なヒトやモノやコトとの出会いを通してみなさんの可能性を広げていくことが大切だと言われています。「キャリア教育」でよく「自分探し」という言葉を聞くとと思います。私は「自分探し」をすることには意味がないと思っています。どんなコミュニティに所属するのか、どんな人と関わり合うのか、どんなことに取り組むのか、そうした様々な関係性の中でどんどん“たし算”が行われ、自分がつくりあげられていくからです。キャリア教育も“たし算”なのです。